

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	伊都土地区画整理事業地内小学校	階数	地上4F
建設地	福岡県福岡市西区女原北88番、89	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準住居	平均居住人員	1,200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,300 時間/年
建物用途	学校集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年7月20日
敷地面積	15,386 m ²	作成者	司建築設計事務所 浜井 伸彦
建築面積	4,634 m ²	確認日	2015年7月20日
延床面積	11,075 m ²	確認者	司建築設計事務所 浜井 伸彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 76%

③上記+②以外の: 76%

④上記+: 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.3
空気質環境	3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

機能性	3.6
耐用性	3.2
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

水資源	3.8
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.9
地域環境	2.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 自然採光、自然換気の確保 雨水、地熱等自然資源を活用 	その他
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然採光、自然換気の確保 柱型・梁型による日射制御(庇の設置) 	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 全熱交換器による外気負荷の軽減 LED照明、高効率照明を採用 地中熱を利用したクール・ヒートチューブを採用 窓上部に庇を設け日射負担を軽減 	Q3 室外環境(敷地内)
		その他
		<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設である留守家庭子ども会及び地域の公民館・老人いこいの家を含む複合施設として計画 敷地が狭いことからプール・屋内運動場を建物2階に設けた計画
		<ul style="list-style-type: none"> 敷地外周部に植栽帯による緑化 敷地からグラウンドを除いた面積の16%を緑化
		<ul style="list-style-type: none"> 4階建ての校舎棟を南側に配置し、低層のプール棟・体育館棟を北側に配置し、隣地への日影の影響と圧迫感を極力抑える グラウンド外周部に常緑の低中木を植栽し砂埃飛散防止

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される